

指導日時：平成27年10月29日（木）第2校時  
 指導学級：第2学年4組（男18名，女22名）  
 指導者：宮城県石巻西高等学校教諭 鈴木 涼子

1 単元名 評論3「日本人の美意識」高階秀爾（東京書籍『精選現代文B』）

2 単元の目標

- (1) 筆者の考える「日本人の美意識」について理解し，自分に引き寄せて関心を持つとしている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 構成や論の展開を理解し，内容と筆者の主張を的確にとらえ，日本人の精神文化について理解を深めている。 【読む能力】
- (3) 理解した筆者の主張を，自分なりに再構築し表現している。 【書く能力】

3 指導について

(1) 単元について

本単元は，日本人の美意識が西欧の美意識と対比されながら説明されている。評論文に多用される二項対立の用法が用いられており，論理的文章の読み方について理解を深めるのに有効である。また，小さいものや汚れのないものに美意識を感じるのが日本人の感性であるという筆者の主張は，興味深いものである。

(2) 生徒の実態

教材として取り上げる文章が内容・語彙ともに難しさを増し，特に，評論文のような論理的文章には苦手意識を抱いている。難易度の高い文章は，教師の説明を聞きわかったという声が聞かれるが，その内容を自分の言葉で説明すると不十分であったり，「わかった気」で終わっている様子が見られる。

授業を聞く姿勢，提出物の提出状況などは良好で，受身の取り組みは十分である。自分自身で考え，それを表現することもできるような自発的・主体的な姿勢を育てていきたい生徒達である。

(3) 指導について

「生徒の実態」でも述べたとおり，論理的読解が苦手な生徒が多い。二項対立の用法が用いられた本単元を通し，論理的読解の視点を身につけさせたい。

また，前期に日本人の自我構造について学習したばかりである。日本人の美意識について述べられた文章を読むことで，日本人の精神文化についての理解を深め，国際社会に生きるうえでの土台となる，自国や自己の理解の一助になることを期待する。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力
筆者の考える「日本人の美意識」を理解し，自分に引き寄せて考えようとしている。	文章を，論理的に読み解こうとしている。	筆者の考える「日本人の美意識」について，適切にまとめている。

学習活動における具体の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力
筆者の考える「日本人の美意識」を身の回りから例を挙げることができる。	指示語や接続語，論の構成に注意し，論理的に読解を行っている。	筆者の主張を，自分の中で再構築し，言語化している。

5 単元の指導と評価の計画（全6時間）

	学習内容	学習活動における 主な具体の評価規準	評価方法
第1時	・日本人の美意識について関心を持つ。 ・全文を通読する。	【関】日本人の精神文化について興味を持っている。	発表
第2時	・第1段落を読解し、「うつくし」「きよし」という言葉の意味の変遷をまとめる。	【読】それぞれの言葉の意味と、時代に伴う、その変遷をつかんでまとめている。	ワークシート
第3時	・第2段落前半を読解し、「うつくし」の美意識を読み取る。	【読】「うつくし」という言葉と、小さいものに喜びを感じる日本人の美意識との結びつきを理解している。	ワークシート
第4時 (本時)	・第2段落後半を読解し、日本絵画における「写実」の性格を理解する。	【読】日本と西欧の絵画の違いを対比的に読み取り、日本絵画の「写実」の性格を理解している。	ワークシート
第5時	・第3段落を読解し、「きよし」の美意識を読み取る。	【読】「きよし」という言葉と、「否定の美学」との結びつきを理解している。	ワークシート
第6時	・「日本人の美意識」について自分の考えたことをまとめる。	【関・書】筆者の考えを理解し、「日本人の美意識」を自分自身に引き寄せて考えている。	レポート

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

日本と西欧の絵画の違いを対比的に読み取り、日本絵画の「写実」の性格を理解する。

(2) 本時の評価

	具体の評価規準	評価をAとする具体的な姿
読む能力	日本と西欧の絵画の違いを対比的に読み取り、日本絵画の「写実」の性格を理解している。	日本と西欧の絵画の視点の違いを対比的に読み取り、「日本絵画が写実的ではないが、『写実的』である」という逆説を説明できている。

(3) 学習指導上の工夫

- ・論理的文章に多用される二項対立の用法について、予め学習する。
- ・本文を図式化することで、二項対立の構成を明らかにする。
- ・読み取った内容を言語化および文章化することで、学習内容の整理定着を図る。

(4) 準備物

教科書、ノート、ワークシート、国語辞典

(5) 本時の学習内容

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 7分	○前時の復習 <b>【発問】</b> <u>筆者の言う「日本人の美意識」の特徴は何か。</u>  ○一般的な「写実」の言葉のイメージを確認する。  ○本時の目標確認	ペア 3分  一斉 2分  2分	・個人で思考を整理させた後に、他者に説明することで確認を行わせる。  ・日本絵画と西欧絵画を見せて、一般的な「写実」のイメージが西洋画であることを確認する。	
日本と西欧の絵画の違いを対比的に読み取り、日本絵画の「写実」の性格を理解する。				
展開 40分	○「二項対立」の用法について確認する。  ○本時の学習部分の音読  <b>○日本絵画と西欧絵画の違いについてまとめる。</b>  ①教科書の日本絵画と西欧絵画の記述部分を区分させる。 ②日本絵画と西欧絵画の特徴を記している部分に、それぞれ傍線を引かせる。 ③生徒が発表したものをもとに、相違点を板書にまとめていく。 ④相違点を図式化する。  <b>○日本絵画の「写実」の性格を読み取る。</b>  <b>【発問】</b> <u>「日本絵画が写実的ではないが、『写實的』である」とはどういうことか。</u>  ①ワークシートにおいて個人でまとめる。 ②グループ内で共有し、よりよくまとめる。	一斉 1分  4分  ペア 15分      グループ 20分	・本文の「日本の絵画表現は写実的ではない～しかし～『写實的』なのである。」に傍線を引かせ、本時のポイントを意識させる。  ・論理的読解において多用される用法であることを確認する。  ・二項対立を意識しながら聞くよう指示する。  ①接続詞などにも着目させて、二項対立の内容を区分させる。  ①②時間を設定する。  ④日本絵画と西欧絵画の視点の違いを簡潔に図式化できるように、図の作成に使用する素材は準備しておく。  ・グループの班長を決める。  ①②時間を設定する。  ②グループで内容を共有することで、自分の不足部分を補うように指示する。	<b>【読む能力】</b> 日本と西欧の絵画の違いを対比的に読み取り、日本絵画の「写実」の性格を理解している。 (ワークシート)

	③全体に発表する。  ○日本絵画の写実性が，日本人の美意識と関わりがあることを確認する。		③グループでまとめた内容をホワイトボードに記入させる。  ・小さいものに愛情を感じる日本人の美意識が，日本絵画的写実性を生んだことを理解させる。	
まとめ 3分	○次時の予告	一斉 3分	・次時は，「否定の美学」について学習することを予告する。	

(6) 板書計画 (別添1)

(7) ワークシート (別添2)